

静岡県東部地域 × スポーツ

自転車編



静岡県東部地域インタビュー企画

チームブリヂストンサイクリング

とくだ すぐる
徳田 優選手

「富士山が一番印象的です」

TEAM BRIDGESTONE Cycling(チームブリヂストンサイクリング)所属の自転車競技選手。2019年から同チームに所属。京都府出身。お気に入りの場所の一つは、「達磨山」。トレーニングの一環として利用しており、「長い上りなので、トレーニングとしても使いやすいです」。上った後の「富士山と海とを一緒に見れる、この辺の自然を一気に体感できる景色はすごい良いですね。」とお気に入りの模様。



三島市周辺はスポーツがしやすい場所 散歩をしたり、ランニングしたり、自転車に乗ったり



オススメサイクリングコース紹介の一コマ。駿河湾と富士山と大瀬崎(沼津市)を眺められる。

ー今までは神奈川県在住。昨年、静岡県東部地域にお引っ越しされたと聞きました。静岡県東部地域に来て印象的だったことはありますか。

「今、プレイングマネージャー的な感じで活動しているので、選手やチームに何かがあったときに、すぐに動けるように、ということで引っ越ししました。

住み始めたのは昨年ですが、今までもレース等でこちらに来ていたので、いた時間は長いかもしれないですね。

住み始めて感じたのは、やっぱり富士山が一番印象的でした。神奈川県にいても、練習中に富士山が見える場所は結構ありました。でも、家の窓や、家の外に出ればすぐ富士山が見えるというのは、「静岡に来たな」という感じがしました。妻が一番興奮していましたね。」

ーチームの拠点のある三島市周辺の住み心地はいかがですか？

「住みやすいですね。特にスポーツがしやすい場所というイメージがあります。チームの拠点近くに、野球場やグラウンドもあります。僕、毎朝狩野川沿いをランニングしていますが、散歩をされてる方、走っている方、自転車乗っている方がいますし、土日やと、今から野球をしにいくんだろうな、という人たちもいますね。スポーツがしやすい場所やな、というイメージを持っています。この辺りは、スポーツすることへのハードルがすごく低く、みんなが使いやすいスポーツ施設があることに驚きました。スポーツをすることへのハードルの低さは良いと思いますね。数年前ですが、僕らもシーズンオフに近くの体育館を借りて、みんなでバドミントンをしたり、グラウンドで野球やキャッチボールをして遊んでいました。」



「アクティブに遊べる場所が多いですね 車が好きな人にも良いかも」

ー東部地域のオススメを教えてください。

「お気に入り、ラーメンはっせんというところ。汁なし担々麺が有名でお気に入りです。チームの拠点辺りは、おいしいラーメン屋さん多くてめちゃくちゃ嬉しいんですけど、行き過ぎると太るので。誘惑が多いんですよ。節制しながらという感じです。

(スイーツ巡りもお好きだと聞きましたが、この辺りの散策は?) まだ行けてないです。甘いものは好きなんですけど、まだその開拓が進んでないので、ぜひおすすめがあれば教えてほしいですね。

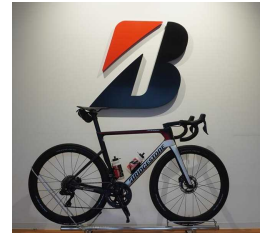


この地域は、休みの日に、うーんとのびのびしたいのであれば、おすすめかなと思いますね。それこそ、アクティブに遊ぶ場所がいっぱいあります。遊びの範囲が広いですね。アウトレットでショッピングもできますし、モータースポーツ観戦、プロチームは自転車もサッカーもありますし。東京で遊びたくなればすぐに行けます。僕も神奈川の友人に会うときは三島から新幹線で遊びに行くんで、かなり遊びの幅が広がると思いますね。

あと、チームには、車が好きなのも多くて、**車が好きの人にとってもこの地域は結構いいのでは**。箱根にも近いですし、東京の夜景見ながら走りたくなればすぐに出られるので。車を持つことが都内だと不便な面がありますよね。チームには、車を複数台持っている選手もいるので、車が好きの人にとってはこの辺りはいいかもしれないですね。」



サイクリングの環境、自転車競技の環境の良さ 選手として自転車に乗ることへの想い



クラブハウス正面玄関

ー自転車に乗る、サイクリングをする環境として、東部地域はどうですか。

「以前住んでいた場所では、家からサイクリングできる場所まで出て行くということが難しかったです。車で移動してからサイクリングをするという感じでした。

この辺りは、家からサイクリングがスタートできて、ゴールもできるということが大きいかなと思います。川沿いのサイクリングロードがちゃんと整備されているので、わざわざ車の通りが多い道を使って移動しなくても良いです。自転車はこっち、車はこっち、という住み分けができてるので、危ないことやトラブルも少ないのではないかと思います。」

ー自転車競技の環境としてはどうですか。

「抜群の練習環境です。『自転車競技の聖地』と言っても過言じゃないですよ。選手もいっぱいいますし。選手が多いということは、自転車の知識が集まってるということ。ここで乗ったら楽しいとか、ストレスなく走れるとか、こうしたらいい、という知識が集まっているので、トレーニングだけでなく、一般の方のサイクリングとしても間違いなく聖地、自転車に乗るなら最高の環境です。」

ー昨年は、お仕事体験会などで、地域の子供達との触れあいもありましたね。

「お仕事体験会やイベントで自転車に触れ合ってもらうことで、競技するかどうかは別として、選手だけでなく、監督がどういうことをしてるかなど、『自転車は速いだけじゃないよ』、ということが伝えられて僕は楽しかったです。

自転車は、一番最初に免許を取らず自分で操作する乗り物だと思うので、子供達にはそれを楽しんでほしいです。何より危ない乗り物ではない、つまり、**自転車が危ないんじゃないって、乗り手が危ないだけ。自転車が悪いんじゃない**ということは伝えたいですね。

『転ぶから危ないのでやめとき』みたいなことで、乗るチャンスがなくなる子がいるのは嫌だなと思います。自転車はすごく楽しいですし、僕自身、自転車競技で成長させてもらった人間なので。

僕、チームブリヂストンサイクリングに所属して5年目ですが、チームに入ってから**1度も落車**してなくて、5年間転んでないんですよ。5年間レース活動だけでなく、練習でも走っていますが、落車していないので、『自転車が危ないんじゃないよ』ということを伝えられるのは僕の強みかなと思います。乗り手がしっかり技術を持って、安全に走れば、危なくないし、楽しい乗り物だということは伝えていきたいですね。

ぜひ自転車に触れ合ってもらう機会が増えたら良いな、というのと、この辺りは自転車に触れあうためのハードルがすごく低い地域だと思うので、初めてのサイクリングからぜひきて楽しんでもらえたらなと思います。」



子どもお仕事体験会の様子



静岡県東部地域局

〒410-0055 沼津市高島本町1-3
TEL 055-920-2139
MAIL toubu-chiiki@pref.shizuoka.lg.jp
<https://www.pref.shizuoka.jp/kensei/chiiikikyoku/tobuchiiki/index.html>
Twitter [Toubu_shizuoka](#) / Instagram [shizuoka.pref_toubu](#)

「TEAM BRIDGESTONE Cycling」は、
静岡県の「ふじのくにスポーツサポーター」です。
発行：令和5年6月



特別編 追加で教えてもらいました

徳田選手が思う自転車競技の魅力、 チームの力、チームスタッフについて

ー自転車競技(ロード)の魅力を教えてください。

「景色とスポーツが両方楽しめることですね。自転車競技、レース自体が町に来るということが、魅力かなと思います。自分たちが観に行かなくても家の前を自転車を通ることもあります。この辺りでは、富士山は”日常”で、玄関をあければ”富士山がある”というイメージですが、そこに100台以上の自転車が、見たことないスピードで走ってくるのは、一気に”非日常”に変わると思うので、そういうところも魅力かなと思います。」

ーロードレースは個人に順位がつきますが、実際はチーム戦と言われているんですね。このイメージがなかなかつきにくいのですが。

「僕は、個人競技というイメージをあまり持っていないかもしれないですね。チームメイトが勝ったら、自分が勝っていなくても純粹に『100%勝った』と言えますし、というか、実際言ってますし。自分もダメで、チームメイトもダメやったときに、自分がもっとこうしたらよかったのに、いけたのではないかと、思います。」

(チーム戦としての戦う意識が根付いたのは)学生時代、いい先輩に恵まれたからだと思いますね。この人のためだったら、頑張ってアシストしようと思える先輩に多く恵まれて、あと僕のために頑張ってくれる後輩や同期に恵まれたとことが大きいかもしれないです。」

ーチームについても教えてください

「トラック競技がメインで、中距離の選手が多いです。野球では足が速い選手、ホームラン打てる選手、守備が上手い選手と分けてチームを作りますよね。でも、今のチームは、全員4番バッターみたいなチーム。普通は、登りが得意な選手、スプリントが得意な選手、平坦が得意な選手をどのチームもバランスよく入れる中で、うちは同じタイプのトラックの選手がずらっと並んでいます。他のチームとは違う作戦の立て方をしないといけないので、それが楽しいですね。」

ー徳田選手は上りの得意なクライマータイプ、チームでは貴重な存在なのでは？

「上りも比較的得意ですし、下りもコーナリングも得意です。(トラック競技の自転車は)ブレーキが付いてなくて、競技場の中を走っていますので、(トラック競技の選手の中には)ブレーキをかけながら走ることが苦手だったり、雨が降ったら途端に走れなくなる選手もいます。そういう中で、自分はロード専門の選手として、自分の良さを生かして走ることを担わないといけません。チームの一番の目標は、トラック競技の勝利だと思いますが、チームとしてロードをやらないことはありません。どうやったらうまく走れるか、雨でもストレスなく走れるのかをシェアしていく立場だと思っています。」

ー近年はチームのスタッフのお仕事も始めましたね。意識していることはありますか。

「単純に自分がやってほしいことや、嬉しかったことをやるだけなので結構簡単です。やること自体は簡単ですけど、面倒くさいことが多いです。『こんなに面倒くさかったんかー』と改めて実感し、スタッフに感謝しています。」

僕は、メカニックでもマッサー(マッサージなどで選手のケアを行う方)でもないのですが、特別何かができるスタッフではないです。メカニックが自分の仕事をする時間を作る、マッサーがマッサージに時間をしっかり使うことが、選手のためです。自転車の整備や選手の体を触るのは特別な技術なので、それに専念してもらえるようにしなければ、と思ってます。どのチームも、マッサーが給水ボトルを洗ったり、補給食を作ったりします。うちは監督が補給食を作りますし、僕がボトルを洗うことで、マッサージの時間を少しでも長く取ってもらえます。自分がボトルを洗い始めて、マッサーの人はマッサージし終わった後にこれをやったのかと思うと、『いつ寝るねん』と感じました。

昨日(取材日前日)のレースで使ったボトルは約80本。大変だし時間がかかりますね。本当に、ただただ面倒くさい。だけど、僕ができることをマッサーなどに絶対にやらしちゃいけないと思います。レース中に何が起きるかもわからないので、そちらに専念してもらうために、誰でもできることは積極的に自分がやるようにしています。レース中のパンクやトラブルは、メカニックの腕がいいので、すごく少ないチームだと思いますが、メカニックには自転車の整備に専念してもらいたいと思います。誰でもできないことができる人たちが集まってるんで、サポートとしては、誰でもできることは自分がします。」

ー選手兼チームスタッフ、その立場での活動は。

「『こう言われたら、こう思うんじゃないか』という選手目線に立って発信しないといけないなとは思いますが、裏方だから黙っていると、僕がこの立場にいる意味はあまりないので。普段からスタッフ間でもコミュニケーションをとっていますが、『選手はストレスに思ってるんじゃないか』ということなど積極的に言うようにしてます。」

徳田選手、特別編もご紹介いただきありがとうございます。